

令和 4 年 1 2 月「月 報」

1 はじめに

減少気味だった新型コロナウイルス感染症の陽性者がじわりじわりと増加傾向にあり、第8波の懸念が広がっておりますところ、季節柄、インフルエンザの流行も心配され、健康管理には十二分の配慮が必要になってきております。

新型コロナウイルス感染症に関しては、5回目の予防接種が始まっており、既に接種された方も多いことと思います。基本的な感染対策を実行し、健やかな年末年始を迎えたいものです。

自衛隊家族会は、2年連続で中止した新任会長・事務局長等研修会を開催しました。

詳細は後の項で報告いたしますが、令和2年から4年にかけて新たに各県等家族会の会長・事務局長に就任された方々に、自衛隊家族会に係る理解を深めていただき、本部と県本部等との連携を密にして、円滑に運営してゆくという目的にかなった研修だったと感じています。実施した内容を今後の活動に生かし、実りある研修だったと言えるように努めてまいりますので、引き続きよろしくお願い致します。

令和5年が、皆様にとって良い年でありますようにお祈り申し上げます！！

2 防衛省・自衛隊の活動

(1) 年末に向け、国家安全保障戦略、防衛計画の大綱、中期防衛力整備計画の、いわゆる防衛三文書を新たに策定する議論が行われておりますところ、伝えられるところによれば、政府・与党は装備品の調達目標などを定める5年間の中期防衛力整備計画（中期防）を10年の計画に変える検討を始めました。

従来は、安全保障の基本方針を示す国家安全保障戦略、同戦略に基づき防衛力の水準を定める「防衛計画の大綱（防衛大綱）」をそれぞれ10年ほどの期間を想定してつくり、その防衛大綱に沿って、5年分の主要装備の数量などを「中期防衛力整備計画」で示していますが、新たな計画では、2023年度から10年間の計画とし、名称は「中期」を削り「防衛力整備計画」にし、前半5年と後半5年で重点分野を変える方針とのことです。

(2) 陸上自衛隊：和4年度米国における米陸軍との実動訓練（JRTC（ジョイントトレーニングセンター）22）

10月20日に訓練を開始し、11月25日に終了。
現代戦の様相を取り込み、実戦を模擬した環境における連続状況下での対抗演習で、作戦遂行能力及び日米陸軍種間の相互運用性の向上を図ることができました。



(3) 海上自家隊：米陸軍との共同訓練

11月21日、日米同盟の抑止力・対処力を強化すべく、相模湾で護衛艦「やまぎり」に米陸軍のヘリコプターUH-60L 2機が発着艦する訓練を行い、海上自衛隊と米陸軍との相互運用性を向上させました



(4) 航空自衛隊：令和4年度高射部隊実弾射撃訓練

9月20日から11月7日（月）までの間、米国ニューメキシコ州マクレガー射場で、ペトリオットのミサイル実射に関する一連の行動に係る訓練を実施し、



任務遂行能力の向上を図るとともに戦闘能力を確認しました。本訓練は、昭和38年に開始以来、今年度で59



回目の訓練となります。全国の高射群及び各部隊から約380名の隊員が参加し、陣地変換訓練、ミサイル再搭載訓練を実施したほか、陸空協同（空ペトリオット部隊と陸高射特科部隊）による防空戦闘訓練及び実弾射撃訓練並びに日米ペトリオット部隊による部隊間交流及び連携射撃を実施する等、総合ミサイル防空能力及び日米共同対処能力の向上を図りました。

3. 家族会の活動

(1) 令和4年度新任会長・事務局長等研修会

11月10日、グランドヒル市ヶ谷において、令和4年度新任会長・事務局長等研修会を開催しました。

研修会には、令和2年から4年にかけて新たに就任した県家族会会長、事務局長のうち、新任会長で、事務局長等の時代に研修に参加した経験のある方を除いた30名と、本部・事務局から会長はじめ21名が出席しました。

会場では、ソーシャルディスタンスを保ち、常にマスクを着用し、新型コロナウイルス感染防止対策に留意して行われました。



会長の挨拶に始まり、自衛隊家族会の「目的」・「信条」から、「活動の手引き」



に沿って自衛隊家族会の業務、その運営、公益
社団法人として必要な活動、事務手続き等の他、
推進委員会を設置して活動している「おやばと



拡販」「家族支援協力」「会勢拡大」「活性化施策」につ
いて、それぞれの委員長から説明
を致しました。



公益事業である「国民に対する防衛意識の普及・高揚」のための「おやばと拡販」、
活動の基盤である「会勢拡大」、生き生きと活動する「活性化施策」、それぞれに関心を
もって研修した参加者が、より大きな関心を寄せていたのが「家族支援協力」でした。

公益事業である「自衛隊の諸活動に対する激励・協力」の
一つである「家族支援協力」については、今年の7月末に
航空自衛隊との中央協定が締結され、夫々の地域で具体的
に家族支援協力の内容が調整・検討されているところであ
り、逐次、各県家族会と駐屯地／基地、或いは部隊等との
間で、地域の実情に合わせた協定が結ばれつつあります。



その調整・検討の段階で、協力する家族会側の認識と協力
される部隊側の認識に乖離がある場合が少なからずあると
いう背景から、「家族会側の理解を深めるとともに部隊側にも
理解を深める働きかけをして欲しい。」という意見や、家
族会会員以外の隊員家族への支援の要望も多いことから、

「この際、支援を望む家族には会員になっていただければどうか？」という、会員数現
象に歯止めをかけたい切実な意見が出る等、50分間準備した質疑の時間は瞬く間に
過ぎました。

続く意見交換会では、宮下副会長の挨拶に始まり、以前なら夫々テーブルを巡って交
流するところでしたが、新型コロナウイルス対策の下、テーブルを巡る代わりに、出席さ

れた新任会長にご挨拶をいただきました。研修会の所見を述べる他に、今後の抱負を述



べる方、今までの業務の反省（？）を述べる方、様々でしたが、一様に研修会の実施を支持して下さい、また、今後実施する上での様々な提案をいただき、設営側として感謝しております。

大いに話題となった家族支援協力の内容の理解をはじめ、事務手続きに至るまで、参加された会長、事務局長による地区会等への普及に期待するところ大です。

引き続き、宜しくお願いします。

(2) 令和4年度 近畿地域協議会総会を開催

10月29日（土）、令和4年度自衛隊家族会「近畿地域協議会総会」（和歌山県家族会担当）、及びこれに接続した「市民ふれあいコンサート」（同協議会主催／和歌山地方協力本部協力／第3音楽隊出演）が、和歌山県和歌山市内和歌山城ホールで開催されました。河本近畿地域協議会会長の挨拶で始まった「地域協議会総会」では、「新入隊員新規会員確保」、「役員高齢化に対する対策」について、現状と各県の対策等を発表し、その後、質疑応答及び熱心に意見交換・議論がなされ、「先ず家族会を知ってもらうこと」「役職者は名誉職ではなく実務者」「後継者の育成」「女性役員の増加」等の意見が見られました。

今回の総会は引き続きコロナ禍のもと、また、協議会会場の確保にも大変苦勞する中、日頃からお世話になり、また、一体となって活動している和歌山地方協力本部の支援をいただきながらの開催でしたが、各県会長、事務局長等と昼食会を含め、対面での意見交換となり大変有意義でした。

↓ 地域協議会総会の様子

地域協議会後に開催された「市民ふれあいコンサート」では、満員御礼の状態の中、開演冒頭に本コンサート主催者として河本近畿地域協議会会長、及び同協力として和歌山地方協力本部長 梶（かこい）1佐の挨拶がなされ、それぞれに、家族会の主催であること、家族会の日頃の活動の様相などの話が盛り込まれていました。



コンサートでは第3音楽隊と信太山ラッパ隊（信太山駐屯地第37普通科連隊）の出演もあり、小さなお子様からお年寄りまで迫力と趣向を凝らした演出を堪能していました。

ご協力いただいた和歌山地方協力本部、第3音楽隊、信太山ラッパ隊の皆様に感謝申し上げます。



(3) 令和4年度 四国地域協議会総会を開催

11月12日(土)、令和4年度自衛隊家族会「四国地域協議会総会」(徳島県家族会(岩野会長)担当)が吉野川ハイウェイオアシスで開催されました。

「家族会の魅力化施策」「おやばと購読拡大施策と推進」をテーマに活発な意見が交わされた協議会では、「家族会会員に対する、駐屯地・基地への訪問／見学等の便宜供与機会の提供」「女性部会、女性メンバーによる活動の推進と地区会長への積極的な登用」「地方協力本部と連携した入隊希望者情報の収集および共有」や「おやばとへの積極的な投稿の推進」「各家族会や会員の子弟等に関する多くの記事の掲載」「会員拡大を最優先とした活動と会員以外に対する購読勧誘活動の推進」等の意見が出されました。



その後、第14旅団長 遠藤 陸将補から「わが国を取り巻く安全保障環境と陸上自衛隊の取組み」と題した防衛講話をいただき、一同認識を新たにしたところです。

お忙しい中ご出席いただいた、愛媛・香川・高知・徳島各県地方協力本部長、海上自衛隊第24航空隊司令、中部方面総監部人事部募集課長に深謝申し上げます。



(4) 令和4年度 東海北陸地域協議会総会を開催

11月16日(水) 令和4年度自衛隊家族会「東海北陸地域協議会総会」(岐阜県家族会担当)が、岐阜グランドホテルで開催されました。地域協議会は、式典、防衛講話、意見交換会の三部で構成



され、田辺岐阜県家族会会長、堀川東海北陸地域協議会長が挨拶に立ち、第10師団長 中野 陸将から祝辞をいただきました。



防衛講話では、元陸上幕僚長 火箱芳文氏から「東日本大震災と自衛隊の危機管理」と題し、自衛隊の災害派遣雄弁組みや、東日本大震災における自衛隊の活動、活動の実態や所見を伺いました。



続く意見交換会では、岐阜県の担当理事が議事を進行し、「コロナ禍における自衛隊家族会活動」「会員の士気高揚と組織拡大」をテーマに、事前に各県会長に行ったアンケートを基にポイントを絞って活発に意見が交換されました。

「役員の若返りで新しい発想を期待」とする一方、「若い会員は仕事の都合で平日の行事参加は困難」という現実も指摘され、「女性部会の立ち上げ」「会員同士のつながり、女性会員（ママ友）の結束力は強力」との意見が出されました。また、入隊激励会を活用し、「おやばと」や「家族会パンフレット」とともに入会申込書を配布したえい、親の体験談を紹介する等して会勢拡大に成果を上げた福井県の例が提示されました。



事前アンケートの実施等、本部で実施する会にも大いに参考になる地域協議会でした。

翌日、地域協議会に出席した古賀委員が岐阜基地司令 藤永 空将補を訪ね、家族会パンフレットを手渡し、家族会の組織、空自との中央協定が締結された家族支援協力活動、家族会問い合わせ窓口等について説明しました。

その折、藤永空将補から「行事の時には地区会長にもお声がけします。」とのお言葉を頂いたそうですので、皆様、お声がかかったらふるってご参加ください。



（５）北方領土返還要求中央アピール行動「アピール行進」

12月1日、時折小雨降る東京日比谷公園野外音楽堂で北方領土隣接地域振興対策根室管内市町連絡協議会主催の北方領土返還要求中央アピール行動が開催されました。20名を超える国会議員、各都道府県代表、その他の団体を含め、運動に熱意を持つ人々が全国から集まる中、根室市長、北海道知事、内閣府及び外務省の各副大臣が挨拶に立ち、元島民の決意表明の後に、銀座を行進して北方領土問題の解決を



アピールしました。

4 事務局からの連絡

(1) 「DW (ディフェンス・ワールド) 23」の購読申込案内

只今、総合募集情報誌2023年版DW23を現在編集しており、令和5年1月末に完成予定です。

DW23では、**陸自：練馬駐屯地、海自：呉基地、空自：百里基地**取材し、自衛隊員を目指す人や自衛隊を知りたい方に、最新の情報や写真を多く取り入れて、読み易く、かつわかり易く編集しています。

令和5年1月末以降、入隊・入校等予定者激励会が予定されていることと思います。

是非DW23を募集活動や会員拡大にご活用いただきたくお願い申し上げます。



申込みは、別添の「ディフェンス・ワールド2023年版購読申込書」を使用してメール、またはFAX等でご連絡をお願い致します。

なお会員への販売価格は**500円／冊**、**申込期限は、令和5年1月31日**です。

(2) 令和4年度各県自衛隊家族会事業計画作成について

令和4年度自衛隊家族会事業計画（骨子・案）について、令和4年度第5回理事会（12月初旬書面決議）において承認をいただいた後、令和5年度各県自衛隊家族会事業計画の作成・報告について通知いたしますので、よろしくお願い致します。

(3) 各県入隊・入校等予定者激励会について

年が明けますと入隊・入校等予定者激励会が、早い県では1月末から始まります。新型コロナウイルス感染状況下で決定しないところもあるかと思いますが、予定が立ちましたら家族会事務局（業務担当）までご連絡をお願い致します。

細部様式等につきましては別途連絡いたします。

(4) 北方領土返還要求運動全国大会の開催について

令和5年2月7日に国立劇場大劇場にて開催いたします。

若い世代に領土問題を語り継ぐ企画もあり、YouTubeにより大会の様子を全国配信する予定です。皆様のところでご覧いただけますので、細部決まり次第ご連絡いたします。

以上